

2006年12月27日

関西電力株式会社社長 森 詳介 様

美浜 3号の運転を再開しないで下さい 緊急申し入れ

若狭連帯行動ネットワーク

2004年 8月 9日、貴社は、美浜 3号で復水系配管破断事故を起こしました。噴出する高温蒸気を浴びて下請作業員 5名が即死し、6名が重軽傷を負いました。破断した配管の肉厚を運転開始から28年間も測定していなかったにもかかわらず、減肉していたことは事故が起きるまで知らなかった」と言いわけしてきました。しかし、事故の起きる1年以上前に破断部位の点検漏れが発覚しており、その後何度も減肉による破断事故の可能性を知る機会があったし、少なくとも破断 1~ 2週間前には当該部位が次回点検で初回点検であること、つまり、点検漏れであったことを美浜発電所で確認しています。貴社が減肉を知っていて、故意に次回の定期検査まで修理を先延ばししたのではないかと疑念は、消えることはありません。

事故から2年 5ヶ月になりますが、遺族の憤りはおさまらず、深い悲しみはいやされません。貴社はこれを顧みず 12月 21日、年明けの 1月 11日に運転再開をする」と発表しました。このような暴挙は許されません。

中国電力は、ダムの安全性に関するデータ改ざん問題で、当時の社長や土木担当常務などが役職を辞任しました。しかし、関西電力は、だれも辞任していません。だれも責任をとらずに運転を再開させようとしているのです。貴社という企業の恐ろしいまでの「もうけを最優先させる」体質の一端を見る思いがして、身震いすら覚えます。

福井県警察捜査本部は、年明けにも、破断した配管を管理していた貴社社員数人を業務上過失死傷容疑で立件する方針を固めた」とマスコミ報道されました。配管の危険性を知りながら放置していたと判断し、強制捜査も視野に入れて詰めの捜査を行う」というものでした。

しかし、貴社は一貫して、私どもは、配管破断が起こるまで配管の危険な状態は全く知りませんでした。」と、いまだにとぼけています。

福井県警は、貴社がいかに原発の安全性をないがしろにしてきたかを明らかにし、年明けにも貴社社員数名の罪を問おうとしています。

貴社は、美浜 3号の運転再開日程の発表を謝罪し、運転再開決定を白紙に戻し、自らの責任を明らかにしてください。